復古履霜録

洋学文庫
文庫8
A 176

履古履玄録

完

蓼科大概庵輯録

特
118
227

復古履霜録

倩考大政復古之狀情非一朝一夕事所其由來漸也予別有論于爰
到慶應丁卯夏秋之交迫燃眉之急而端緒可證者絶多故輯
録尺牘寸簡逮與諸侯或有識諸君對策建言醇辯者題曰
復古履霜録欲知大政復古趣先視此冊子思過半矣

般若井父命述

皇太子殿下

長岡

宮内省

御覽遍殊

今皆如仲之御内分ニ被為市蹄恩命可蹈交里左衛門佐今度ニ而ハ微
微之儀ニ而ハ無之候　朝廷之ハ報ハ異ニ而ハ無之候ハ
容堂様市長　皇國市興之ハ
俄ニ被為ハ致ハ変ハ生ハ之例之ハ市ハ
和ハ為ハ毎ハ口和ハ為ハ思ハ
俄ハ為ハ任進ハ

二好察

土佐ハ長ハ

左ハ市長ハ国ハ為ハ銀錢ハ拝借ハ
第之狀
可見文
可知
大朝ハ之変ハ為ハ張ハ
市長ハ大ハ変ハ

市長ハ内中ハ市ハ為ハ
俄ハ市ハ
浪ハ為ハ
印ハ七月
左ハ七月十ハ市長ハ浪ハ
市ハ風ハ

土佐容堂移ハ

容堂様ハ

山ハ秋ハ　四ハ
豊信

一ハ市ハ
仕ハ
二艘ハ　百ハ　一小枝ハ　百ハ
左ハ
九月

村井

和答寫

土佐屋ヒ

狩領和為[illegible]國産品[illegible]ヒ[illegible]朝上則及[illegible]

[illegible]

御海[illegible]

[illegible]

○清[illegible]清代[illegible]集[illegible]趣[illegible]大[illegible]

○[illegible]月[illegible]於[illegible]

上藤英人[illegible]

[illegible]

[illegible]

上藤白[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○十月二日[illegible]

[illegible]

九月

十月

○丁卯六月廿五日小倉藩生駒主税頭[illegible]

誘引於小那駅長藩[illegible]

○生駒主税

[illegible]

○井口云

[illegible]

○当村云

[illegible]

俊秀ナル者ハ井口
世帝ニ仕ヘテ長作ノ官爵大ニ高位ニ昇リ云々

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○井口國元ハ[illegible]用ヲ[illegible]ル[illegible]ニ[illegible]ル[illegible]ハ[illegible]ル[illegible]ル[illegible]ル

○二十日六日本能寺の侍衆所々に毛利輝元侍衆
城を應接し堀秀政城に掛寄せ来る所に
○尾州老公の事名護屋に
○御書の間
○御書上
知如雲り
所
○御書上
知如雲り
所
○秀吉上洛天下第一の指南
彼延引の事
○幕府を以節旨
被仰付
○秀吉
○秀吉
○秀吉

濃州
後藤
孫三郎
教言卿
急ぎ上洛
せらる

○六月十日於京都表彼岸壁領分濃田堺自然之事義絶領分濃田堺
狭隆之ゆへ之事
敵方中間之内に付四郎之
被上洛之間
五月之頃より
京都
之
内
に
ハ
ハ
ハ

[illegible]

九月十六日

[illegible]

十月

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

高時之信を去る事年祀を[illegible]し[illegible]を[illegible]去る[illegible]奇を修て天[illegible]
[illegible]三年墓[illegible]大将軍[illegible]に向て弓を引[illegible]古より
猶利[illegible]事[illegible]し是を滅[illegible]べき七[illegible]逆賊[illegible]を滅[illegible]理[illegible]数を[illegible]
今[illegible]大なるものを[illegible]に[illegible]
背を[illegible]べきものや

けり第八徳川内府を[illegible]る者やう余[illegible]
[illegible]豊臣氏を[illegible]
取[illegible]豊[illegible]天下を[illegible]
[illegible]
豊氏[illegible]を絶つ[illegible]
然[illegible]天下を[illegible]半[illegible]豊氏[illegible]用[illegible]
[illegible]不息豊氏滅絶[illegible]
果[illegible]教[illegible]所謂天数徳川氏を[illegible]

[illegible]代大名連名改[illegible]

[illegible]

朝廷[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

右此二箇条 君臣ノ名分ヲ重ル大義存ル故ニ文云 殺ニ一政ヲ 佞文ニ迷一人有ル事 言行一致セルコヲ見

臣下 朝廷ノ儀ニ万ハ陸奥ニ[illegible]

[illegible]

月日

海ヲ渡リ奥ヲ業付 市蛮代ノ大名連名

[illegible]

[illegible]

月日

掃部三郎九鬼長門守藤原[illegible]

[illegible]

付渡ル[illegible]

[illegible]

悪[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

月日 可連名

朝廷の[illegible]市郎兵衛[illegible]
今朝[illegible]
[illegible]革命を[illegible]
海を[illegible]
[illegible]欲[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

徳川家[illegible]
朝廷[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

軍を移攘を醸し[illegible]
所謂竜を抜く乱を[illegible]
[illegible]大樹橋[illegible]
常 幼帝を補護し[illegible]幕府を[illegible]
[illegible]と名し入[illegible]朝紳を奬誘し時務を論議し幕府を亮輔し自家を私計
匿心を懲[illegible]
多列し物を議論[illegible]
[illegible]川氏[illegible]
俄業を[illegible]
[illegible]外交義を[illegible]

朝家[illegible]
朝家[illegible]
[illegible]年を[illegible]
[illegible]二百余年を[illegible]
皇國を安[illegible]
[illegible]國力充実利益[illegible]

[illegible]
時を[illegible]
[illegible]
[illegible]

天賦の性を恢弘し義烈風を改め有志の士勤王の徒長州藩一偏に
拘泥せざる門閥を問はず人材を求め彼の諸侯長州藩
果断なる所あり其人物を敬し伸基実を以て藩大政を委
伸基実も亦義を以て応じ尤も力を勤王の事に尽し幕府に対し
朝廷に忠節を尽し国事多端の秋に当り大政を摂行し外国交
事に係る件専ら公卿と共に謀議し国体を辱しめざる
を以て大義を明にし人心を失へり

檄文

大丈夫誰か国家を泰山の安きに置き生命を塗炭の秋に投じ吾君堯舜に
烈夫誰か生命を鴻毛の軽に比し君恩を抱て世界を睨み留むるの者ハ
國難を救ふ能ハ
ず故に餓狼の如き諸藩を誘ひ
霸を割据し諸侯を企て
幕府を欺き且各国を逼て臣子たるの道を忘れ
朝廷を蔑ろにし
仁政を行ひ下民を撫育し
難渋を救ひ海を望むの志あるや
古邦一無事にして功名を立つるの奇と思ひ
上は天子を安んじ下は
て俗を敗逆に導き利を貪て中外西国に
諸侯を
諸侯に
諸侯を
諸侯を
諸侯を

を欺罔し上意を　天聽を惑しまんるを謀り万乗の君主を託して公武を離
間し種々を構へて幕府を誹謗し家来を唆教して分内を幕府との間に怨を結
び家来忠義の士を殺して誣罪を天聽に奏して賊臣を除き武
威を恣にせんと謀る　屋敷を奪ひ取て京洛を
騒擾せしむる是を以て罪を天に得て
地を蹂躙するに至る　王法を乱る　神祖の恩澤を背きて
徳義を棄て　乱逆を企て賊子狗彘も食ふ能はざる
所を食ふ　先帝崩御ましまして大喪に大赦を行ふの典に従ひ
を赦して不問に付せられ彼の好雄と謀て源氏の先徒を滅亡
し近年あり招きて諸侯間に列郷あり　幕府に威権を奪ひて中興の
世を乱さんを謀る好雄と　大君是を為に遂に傷敗を蒙
朝廷に上げ奏聞に及ぶ是天下共に怨を結ぶ処なり　後以て生を実に免れ難
情性を天下に公表し諸侯に命令を下し幕府を
天下に孤立せしめ其を蔑如し金吾退衡を説て諸侯を煽動し竟に国を
亡ぼしめたり彼の宰相と謂ふ好雄と謀議し海内を他日雄を競ふ者
　玉室を幕府に要求し卯と尼崎と唱へる鏡を掘て見るより以之を
を以て力を　神祖の恩澤を蒙て
朝廷を尊崇し下大君を羽翼し戴して年を稚を他に委ねんるを欲
て他を集め隊を多く備へ諸侯を誘引し
年より他の年　而後陽を懲て帰順せしむ諸侯あらハ
勅命を請て征討を　幕府の存亡を解を

はて強い弱を欺き大いを併せ天下を形勢四分五裂して鹿化す天正年中を以
ゆく文を結搦し君を殺し乱臣賊子を蹤て出ること久しく世を誅
す室を獨夫を宗主を弱あるを強を
皇室を奉山と為き而加之乱臣賊子を誅鋤して武威を振い即今芳名を千
載に垂るるに先帝の同志を安心せしめ抵て神祇に対し忠力を宗
室に尽さしむ幕府を振興し奸賊を誅戮し宇内静謐万民安堵に帰し
之義実に有之候

檄文

○先朝孝明天皇英哲絶代と見歳ヨワシテ天下を統御し給ふ幕府に委任されし海内
の政を皆ら由知見を奉実を表示し其所を忽にして方今諸侯に対し
[illegible]

[illegible]として世世忠誠を以て幕府に対し謹厚辞儀し古今稀なる厚恩大義を謝
[illegible]時

先帝天下を統御し給ふ幕府に委任せられし海内の政を皆ら由知見を奉実を表示し其所を忽にして方今諸侯に対し
勲労を賞し其将軍職に基て文武を兼方今ニコキを飽迄寵遇せしめ
て斯仰せ定られ[illegible]ありて[illegible]
崩御せられて未幾なく去年三月十五日
新帝を立たまひ大礼を挙せられ及ばれて先帝の遺過せられし
顧命孤と大臣を見任して生大権を大集いひ[illegible]柳何と知ぞ幕府逆
謀を企て[illegible]国内市[illegible]
コシラヘ[illegible]由[illegible]ば[illegible]ば[illegible]徳川家[illegible]大勲労を奪せひひて天

下ニ人民ニ背キ国家ニ違フ
先帝ニ仕セ奉ラズシテ大臣任ニ堪ヘザルヲ
知ラズ先帝ニ先ヅ薨ラセ
新帝未だ幼年ニ坐ス件ノ生田新合戦ハ
ニ成ツテ敵ニ降ラズ抑薩摩芋ハ天下苟モ
あれば生活ヲ計ル国ニ奪ヒ
ニ傷ラルヲ
ニ報ヒ
有ル
今
朝廷ニ

○以方　王政復古の時に明らかなる御宸筆を賜ふ

「朝廷にも御五箇条の誓文を賜ふ」

[illegible]

[illegible]

上様[illegible]

[illegible]

[illegible]

勤むる所祀つるも先代より先臣楠正成一門に対し忠節を　皇家に対し武
功を古今に張し代々に殉国の誠を以て神典に列せられ祀典に列
せられ特に市旗高に市旗に　叡感を何遍賜はり仰せ新たに神號を賜はり祀典に列
皇都に四方の地を相一社の建立を願ひ且又兵庫県に出張し身を亡し朱
市收恤を不世出の恩典を賜はり一念報恩の誠を殊に側但慷慨に堪へざる幽
魂位を安に安堵自然の平和を祈り邦内に不動の基を引き出し奉り
仰願くは代表者の精霊を慰合祀して一社を振社と称し右楠社境内に建立仕
度奉存候　右楠社境内に建立仕度奉存候　謹而
伏義に候尚なほ皇基を賜はり一朝にして多年の宿願を仕
業第一愚者の一言市聖採用の恩恵を賜はり上臣等偏に誠
惶誠恐頓首謹白

愚忠極まり建言に及ぶ所斟酌願はくは天下後世可笑也

十一月

十月廿五日付

建白の趣旨は為国の永久に出たし收恤を不堂者に人名の賜
不洩様早々に上申
但本紙の紀和歌山県の中に

十月初

二伸　建言の楠社の一条は仕方に付き建言書四に市付れ共四条　仰せ出言の事国の
点検に市收恤を不堂者に人名の賜不洩様取計の事
皇国節烈の士綿数牧畜を進ぜらるる時は青史に載せ賞与の時は特旨を以て
外曖昧難者に対し不動の基を出し奉り上の賜を一新して祀典に列せ度

史野參閣陶碑之說を整理し法を博採を極纖芥の毫を糾す時に玉石混交
選擇後に失生し百物生育し天下交際の時に當て國家の銀錢を殉志魂
義魄を失ふ紀綱傾倒に至る人名を医学に於て明に其眼目生を立て
拙面者と生涯を尚交長　其義は詳に記す所なり
但し其法地不毛の地不問方を捨て
[illegible]郡毛[illegible]を[illegible]地[illegible]
十一月　[illegible]

大酒を禁ず

○豊岡大納言建言の時十[illegible]
燕雀の海内の海鳥と大知を[illegible]
乃ち玉体を[illegible]御[illegible]建言[illegible]

○[illegible]
[illegible]年當[illegible]
来内[illegible]外患[illegible]紀綱[illegible]
[illegible]人自[illegible]必[illegible]國政を　朝廷[illegible]
[illegible]
[illegible]食[illegible]勤[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]自然政権を　朝廷[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

○一[illegible]

○一[illegible]

○一

一宮法紀王還俗之上山号勅之事 尤宜

一非義人輒以 綸旨 令扶市 彩扶市 扶市 好

一大学寮再興人中古之有之事 尤宜

一平上地下之分ち分く注古之風習之事 望公国者し武を練り馬剣槍

砲術不稽古者を任使之事 尤宜

但諸国に於て諸藩之内能義之志を有之撰之事 好

一天皇在尚表に 出御之事に中納言方入夜御用議に 入御之事に任使之事 好

一天皇与馬武術之稽古任之事 絶妙

但陸軍之大樹年 諸大名勤能之志を撰之事 宜

一天皇学問清華之家之外天下に 碩儒を召て講釈を令聞之事 宜

一林氏中古以降 天皇勅士之者市つぎ 諸公卿之内に引立公大之事任使之事 如何

一中古以来天子後号を以廃市 遥拝之事 宜

一先帝山陵市再興之事 先以 孝敬帝

仁孝帝市陵葬之事 山陵市 孝先之事 志宜

一先帝之山陵市再興之事 任使市方 勅命 先朝 勅仕之者 仲間 百姓 各雖

髪を剃正之事 宜

一法紀王 勅命 諸国之僧尼を改 還俗 仕 神道 専 尤宜

一此度被為 尤神道儒道之被為 改革 之事 任使之事 好

右条々 御内 仰 被為 改革 之施 諸事 旊例 之拘 諸事 公平 之改革 之施

用を考勢に応じて簡素を旨とし
を免れ自然　王化に靡き
皇威百國に輝き拡張の事実に
諫言

○伏見殿建言

○臣宣教謹聖旨謹而謹中恭惟
聖天子聰明英断にして海内遐邇
源平を棄て天下を公儀に
朝廷に帰し退て王位を
上下高き富士の土壌に蒼海源を深き水底に

王朔を恢化に靡き皇祖人皇実に畝傍山陵に神慮月輪に陵
聖意を叶へ也臣宣教齢七旬に迫て命旦夕に迫る彩曉化に乗じ典に遵て一言
陳述せざれば徒に今世を生に仰ず平生を志ざし因て愚論を顧ず　王政復古に
て以て海内に志を献ず

○職官爵秩　王政に古に一の復す　於議定上下に採用
右謹て案に
王政に古は大政官を建て聽政に於て政務を
官とし右大臣大中納言皆を織を挙げ世襲の大政官廢して大政大臣を
も多くは関白に織を政務を浪費し是権門に預門に為の所以也今
王権再び興し時に当て聯次して中古に蜂起を聞む所必大賞に今に
政官を興し管牒大政官を下し　詔勅中務省に送奏伝奏に織
武部寮に時を生せし織を廢せざるの勿論の孔子所謂必也名を正

乎と問ふ君平答へて職務を失ひ故あり又左右に京職を置て京
洛を守り辛うして捕吏は庭を掃て盗賊を捕ふ
宣明の勅を聞て左右の兵衛を可隆を附令し路頭建礼門を立て
以生胃此事　禁経所習代々名門鄙俗まして王政を壊て
善とし又彼を以て河内国を治て新羅を
時に徒人を奏して曰く今漢文を撰ぶ　王政の四
を天下に示す者これ如何と乎一説あり乱離を経て
名号鄙俗を称謂を一変して生ず　白雪大剣房を慢せん所謂
二字伯を指ずや是今を無敬
上衣下裳を服を王制に復古を為す　前同然

右護国菓を古に形へ鞋と北陸帽を作り身に袍を表
世を為す者は近世より華夷を好る風起り冠を造り頭を造り服襪を
分て造り付る物のことを知らず記て国て洛る正服と為り性を身に帽を
祝を慶し去ること五に公卿と鞋を平拓帽を戴ぎ
俗に向を寒を慢ぎの右と共に
西方に出形上下顔俗を端を
も削て鎌倉を繋ぎを貴やを曲たる実を
証命を作り育て髪を削ることを為め上下庶民を
上衣下裳を俗を為せ一も為て
歳科を安き庭　世別れ自然に胡服を不禁を止む庭　清国中

國ニて明風を変ぜんとせ一時不語者忽殺し国て禁を削り古禮を復せ
今王政復古ニ為て命を学ニ臣を採せ学ニ六中を変て変夷と為ス
数あらんべ不能ハ所謂復古ニ二字何ニ指不学ハ是今日急務ニ
一天皇を迎学して王制ニ古ニの復古
西洋の業ニ　席政ニ仕ふるを不知ハ中ふあり漢ニ学何ぞ高祖ニ為ニ高宗を学ニ
天子ニ学を不知ハ中ふあり漢ニ学何ぞ高祖ニ為ニ高宗を学ニ世
人ニ称せる事之大内ふ記ニ学ニ為ニ学ニ儒ニ学ニ上ニ学ニ
事学記　新演さて法学ニ学ニ学ニ学ニ今ハ僅ニ形ハ加ふて古侯ニ
ニ古法ニ古制船ふ学ニ学ニ既ニ今ニ世界ニ学ニ国ニ学ニ壮学ニ学ニ目ニ警
加生西ニ学ニ学ニ壮学ニ学ニ壮学ニ学ニ　王政ニ復ニ学ニ

前田理

庶民累世ニ高を抜て恵ニ法ニ命一献ニ命せられ
抜武天皇ニ創建ふ先蹤を有識ニ人ニ命て研究せ壮学ニ
皇祖を迎学ニ学ニ有ニ学ニ且安ニ解肯有明ニ正別ニ学ニ　公論難
学ニ官人ニ為ニて
皇祖ニ拘ふ学ニ学ニ学ニ学ニ人ニ学ニ廃ニ学ニ廟て國家ニ大基ニ
ニ建ニ所謂復古ニ二字何ニ指ニ学ニ学ニ学ニ学ニ
一封建ニ制を陸革して王政ニ古ニ二の復古ニ　此支必不可用余大義論り上語ス
右諸ふ業ふ二法度ニ学ニ自生ニ学を私ニ学ニ　王制復古
天智天皇ニ学ニ学ニ学ニ那県ニ制定ふ学ニ学ニ学ニ学ニ学ニ学ニ学ニ学ニ学ニ
学ニ学ニ学ニ学ニ学ニ学ニ学ニ学ニ学ニ学ニ学ニ学ニ学ニ学ニ学ニ

郡の景と共に上総に伝付候て〻〻其地に住候て一時海内せ〻石伝事れ共
人物を撰て諸国に寄と有之候〻〻家老男人不介諸月寺と有之候に者生方力を尽
事を下〻又生命を捨て家恩に報ん事を願〻如何に撰事有此〻を抑
兵を闘〻上を為公家士藤太長伊不堪誠忠孝二心臣事
皇室に為に生命を惜まて況や弥〻主地人民有之必茅て境土を献し財宝を
除て諸侯に首領を求べ〻然て諸侯命撰し境土を納沙汰王室を楽
〻土地を速に返上候て微い献事〻と況あらへ撰やう者不能潰
之て字何と指変べ是今之弱
一門閥世家不拘人材を撰挙し政度古之可採用
右諸家者と古い官を世〻等せ世〻諸を世〻世〻方に撰い官を與へ能撰て職

能かり也万清新羅と人と無し納言藤原国家に玉此事世〻是〻以為
中古藤氏撰を為まして摂関に必已〻家〻物と〻彼〻家は以家を為を先達
と〻以家は何度〻為を規撰とし叶唱を一向に以為を遠飛し事〻今中興て
政を行ん〻次〻て能任義ある者は摂関は庶〻出を為唯一人冠を視て
門閥世家を為論為氏撰を事〻二年餘年先〻撰を謙事能〻て
後〻を下る可事是大を為事〻天道事〻不能所謂漢古之一字は何と
指示学や是今〻為新也 学問既見採用撰以諸清華皆廃棄
寄應三年丁卯十二月 勅任臣清原真人宣教誠恐謹言

比来頻有不憚忌諱可献言之命何求言之深切懇篤也僻邑之微臣不堪
感激謹呈鄙衷夫天無二日地無二王天地之大道古今之通義而時有陽九
之厄沿革之変保平以来政(移)武門世々相継以至今日雖人事所然亦無非
天意方今外患内憂並至天下紛紜政出二門我誰適從天道循環更張之
機亦自相會幸天誘其衷德川内府洞察宇内之形勢熟考天下之大義從
前過失盡帰一身断然帰政權辭將職其志專欲尊崇　王室政出一途
已與亢百矦伯同心協力保護　皇國而與海外萬國並立何其至公至忠
也
　朝廷嘉納其言其所建白事亦重大於是乎欲普召牧伯廣竭公
議而叩其両端裁其當否鄭重慎密至矣盡矣天下刮目而待豈圖去九
日之擧俄兵嚣戎裝以護四門恰如外冦迫庭而卒然有非常変革之命中
外大驚　　九重深奥廟謨宏遠臣等不可測知
先帝之周在近　諒闇哀戚之中不待牧伯之来　朝天下之公議何至
急而一朝改革也德川内府恭謙遜讓不怠　聖朝仁厚惻怛當感
賞其志而慰勞之哀憐其情而覆育之其人今安在臣等竊感爾来有不
論既往更始一新廣竭公議與天下同休戚或　朝廷德川家之間毫無
異議等之　命稍快人意然而有名無實假令戸々說人々諭天下不信然則
方今之急務無他在實踐其所令實踐何也内則速解二条殿下及諸卿之
鎖　朝外則速以　勅使召還德川内府參謀廟謨而廣求有名大藩
之重臣各一両名參與庶政且如長會両藩各奉　勅周旋易地則皆
然毫無私情亦當調和其間令無一物如此則辟疑氷解衆心安堵而後

始可更始一新與天下同休戚。不然則人々自危。天下分裂治乱之機間不
容髮可不慎哉可不恐哉。弊邑雖偏小祖宗以來蒙　朝廷殊遇有再
三之懇命猶傍觀緘默。他日無面以報寡君是臣等所以于冒威嚴敢不避
湯鑊也。臣等固陋僭越不恭不堪恐縮之至幸垂省察誠惶誠恐頓首
謹言。

慶應三年十二月

大澤　政美
坂尾　保助
生駒　實師
橋本　宗稅

一。今般於　朝廷天下之大政奉還被仰出候ニ付家臣中ニ為御知被ニ成ル

訪乃至京師ニ上京之招有蒙　皇命ニ即未出形狀ニ而我小神君幾度
闕下拜趨之情願ニ今改元本順聖德孝
皇國內外之危急
迫り　王室只衰微ニ而海外之憂ニ深ク中原ニ而御拙ニ
其ニ付　皇國之衰微ニ乘ジ中興之機ニ而西方諸侯上京之勢漸ク大典ニ
奉君臣之大義ニ而一方ニ拒ニ市國之[illegible]ニ四方上京之[illegible]
而ニ[illegible]所以ニ而[illegible]國家ニ傷ニ西洋ニ去　皇國內[illegible]
大基本ニ[illegible]ニ功業市事蹟ニ拒ニ[illegible]就ニ政權ニ
朝廷ニ歸[illegible]大會公議ニ以ニ[illegible]基礎ニ[illegible]
御大志ニ[illegible]ニ抑忠孝ニ二ツ天地ニ綱常ニ
[illegible]ニ人ニ人ニ[illegible]我小[illegible]恩[illegible]和漢古今忠臣ニ

者仕社稷に興廢を分顧一生を奉ること千載に能證と其本末に定め今
國家隆盛百年の後時不世出と説勅を以て諸人に錄せる所にて報恩
の至誠を加え大政一途に出る正奸黙識の能は事業に事跡を奏
別の勅書昌平坂に見掛もの付無今せんと存じ
廣祐に深沈に拘ること大事を時の君皇を捨彼を厚他を顧る所あるや
以上只死力を尽し恢復を採中將孫に趣志を奉載し兵事
宜禮下萬民海内の士を敬い忠者に大道を開拓世に誘業を遂ること今
確明に条を始一同五事を定情厚敬愛此家に道を我が身を輔け
皇室一平一力を同し　皇國に平安なるを祈る事
但中古の事に於て當面実用に非ざる第一なる事
月　日

○毛利大膳家事の藝州に侍て　朝廷に奉
一先達の事　朝廷に於て事の中氣の不穩に立
大に世に稀なる事を打て氣の不穩なる及
事に成ること一同に傷事に成ること
傷を加ること能の延引せること
平方に毛利内匠に出物代を一同上坂の藝州
引に付約束に出張に於て
歩に付今般に　朝廷大政
南基に上　但に付使
也藩邸に成事

皇國に方に能に安
天道に千歳に

朝廷奏公卿大僚父子ニ於テハ其情ハ忍ビ難キ
ト雖モ父子勅ニ誅ニ天地不容ノ大罪ヲ犯シ情義難黙止
ル所ニ非ス幕府ハ為ニ上ノ下ニ対シ激変ヲ徴ス仕業必定中間擁蔽浮言護
天日ニ蔽ヒ奢侈流血無辜ノ生民ヲ塗炭ニ陥レ国ヲ危殆ニ陥レ
ニ情ヲ尽シ西方ニ対シテハ信義ヲ失ヒ海内ニ於テハ疑惑ヲ
致ス義ニ為ス　朝廷而已ニ非ス其年所謂

丁卯十月

薩州藩ノ藩京師
出張中ノ藩士
梶原素麿
国友立人

右十月ニ右藩ノ藩士ノ侍奏ニ接シ之ヲ西ノ宮出張ノ藩士ノ

接シ之ヲ題ス薩州ノ藩戦ヲ開キ時ニ

戊辰四月ニ右藩ノ藩士ノ京師ニ遷都建白

一ヲ以テ此ノ大変ヲ惹キ其間ニ年来ノ弊習少カルヲ以テ
セシムル所ノ一戦官軍勝利ヲ収ム巨賊東走ス其一の名頃定ニ至ラス各
国交際形勢ニ法ル列藩謀反方向定ラス人心洶々ト為ス紛々
漫々ト時業未ダ其ノ事ヲ為ス能ハ藩ノ藩ヲ以テ
一時ニ和ヲ結ブ久法ヲ思ヒ出ス則北条ノ跡ニ足利ヲ
幕府覆轍ヲ踏マセラレシ心配ナル所ノ原因ニ依ル深ク
皇室ノ所用ニ関シ
形勢ヲ拘ラス廣ク宇内ニ大勢ヲ洞察シ正ニ形勢ヲ車一塊ノ国体腐
臭ヲ一新シ官武ヲ別チ枝葉ヲ剪除シ奉ル所ノ期ス正

モノ下蒼生と云ふもの、斯上形もしきものと上下一致天下万人感動激発孤孤
御実行擧りしを今高勢を和合あるを千〻是を国之上中年を考へ玉
簾を垂れ人目を塞ぐ堀を深く高く石垣を築き外敵を防ぐ事
此法を御自身を以て国を安泰に天賦之職業を乗度之義あれば其本
道理的適を御職業を定めて初て内閣を設け方を招求相談して
大変革せらるべき時期を選挙を典を準らるに有る所にて出と雖も其理
一致して勢を為り口視を形端に為て〻其形端上を一言を論ず
立上在る所を世上といひ公平を世上方と唱へ
艶顔の羽〻雖き和と男
玉體に寸地を踏と雖ども為り推号
男今せられ治上平厚流〻て

正形今を敬世界と為り〻もの為り敬上愛下人倫を大綱として論あきるあるべ
き所は男女を失ひ臣道を失ひ君を失ひ国を失ひ
仁徳高く治を天下万世に称讃を為ひ和合を為て
為て国中を為き所を為て実君を為ふ物と謂ふ
王政復古を今を為り　市形を　聖時を則らせ印を美政を慶まる大美
防を以拳を為ふ為き遷都あるべ是を一新を撞為て易変鋒を如
形体を大槃を接き民を父母を天賦を君を慶ひ命令を為て天下
慓和を為ひ大基礎を立て推及し為ひあるべ
皇威を海外に輝一美を為と為せ為ひ収る叶ふ為る　迂形を地活花
べからざる立を為ひ治あを形を一変を為（大を為る為あるべ）和を交

際を定め官名を改め諸政を改革大業を成り海陸軍を起すこと
あるべし其局に臨み諸侯に於ても地形適当
なれば賛せよ
太政官の勢大振ひて名を万国に輝かし
内政を事務を立て百年基を開き以て茅昭帝に
命じて他日を遠く所存を徹せんことを
皇国を大海に浮べ大洋昭を一新して卒忽に施行あらんことを
望む新国体を興し万民
代居四月　日　大久保　市蔵
余が考るに此大久保市蔵の主張と一人として此遷都之策を出さゞるべし
其論何者と及ぶや是迄都論余も左袒せり
檄文

○凡天地間に生を受て有形一切の含霊苟も西と黒子を辨ずる者能く心思を定し耳
目を所手足我号令を少知る者は我が赫々たる
天皇命之御大祖皇彦霊大神は　天神地祇及日月星辰を始天地一切万物を
鎔造成化し給ふる大御神なり
天照御神は　日御子の項依て大神は月界を生せ給ひ万有世界を照臨統馭し給ふ
天君と生まれ給ふ大神は比を皇祖天神と申奉るなり我
天皇命は即皇祖天神を宇都御子と生て天津日高命とも皇美麻尊とも申
奉り御位を即ち天津日嗣治者とも申て即皇祖天神に代らして現世一切を
所生を統馭し給ふ天君皇と生て而所生を治世を月神と御衣国大國主天神と
中に出て新築社を建て大神を御支配国と申奉る即

皇祖天神の氏一神とち仰ら我ら大道こそ中ら漢人も君父師と云天下ぶ[illegible]物といろ
ら人民を治平蒔播を始て大抵神胤皇胤なるぬ少なく中世咲

端緒長土密使来往議復古

結局帰檄文摠丁數三十六片

[illegible]